



新吉田

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinyoshida>

横浜市立新吉田小学校

「思い切り遊びたい！」という純粋な思いの実現を

校長 関谷 道代

東門と西門に「運動場使用のやくそく」が掲示されています。

6月の代表委員会は、「校庭開放の遊びのルールを決めよう」でした。「思い切り広いところで遊びたい！」という思いをつのらせ、「校庭で安全に遊びたいと思ったから」「ルールについて話し合うことで、校庭開放を実現したいから」という提案理由で、6年生を中心に実行委員を立ち上げて代表委員会で話し合うところまで頑張りました。

やってもらって当然でもなく、やりたい思いを実現させるためには、自分たちは何をしたらいいのか。まさに社会を動かす話合いでした。

コロナ以前は、放課後の一定の時間、子どもが校庭で遊ぶ「校庭開放」を実施していました。しかし、コロナ禍で、様々なことが制限され、その中の一つに「校庭開放」が中止になり現在に至ります。また、数年前まで、放課後キッズクラブ利用者が50人程度だったのですが、今や登録者が増え、多いときは150人ほどの児童が利用しているため、キッズ利用者がたくさん校庭で遊んでいるという状況になっています。



さて、代表委員会で話し合うための原案を作成する時点から、様々な問題が浮かび上がりました。

- ① 遊びに来ていいのは、新吉田小学校の子どもだけ？
- ② けがをした時、どうするの？
- ③ ボールを使いたいけど、学校のボールを使ってもいいの？
- ④ 校庭で遊んでいる放課後キッズクラブに参加している友達と一緒に遊んでいいの？
- ⑤ 門扉はだれが開けてくれるの？
- ⑥ もし、不審者が来たらどうするの？
- ⑦ 誰が来ているのか、確認する人はいるの？

今まで、「きっと、だれかがやってくれる」と思っていたことに改めて気づき、子どもたちの視野が広がってきました。教職員、放課後キッズクラブのスタッフの方々、しんしょう・応援隊の方々、保護者の方々、近隣の方々、交番の方によるパトロールなど多くの大人の目があると安心です。また、悪いことをしたら、きっちり叱る。いいことをしたら、ほめる。通りかかったらあいさつができる。そして子どもの安全を守る。子ども主体で生まれた活動を、どこまで支援できるか。子どもの夢をどんなふうの実現できるか。「校庭開放」を一緒に作りあげる仲間として、ご賛同いただける方や、よいお知恵がありましたら、ぜひご連絡ください。子どもとともに一緒に悩み、一緒に考えていただけたらこの上なく幸せです。よろしくお祈りします。

校庭でも公園でも、子どもの笑い声が響く活気のあるまちであり続けるために……。どうぞよい夏をお過ごしください。